

山形県鶴岡市立図書館所蔵「庄内藩警備の蝦夷地海岸図」について

About "Shounaihankeibi no ezokaiganzu" Owned by Tsuruoka City Library,
Yamagata Prefecture. - Ezo coast map created by Shounaihan, Late Edo period -

工藤 義衛*

Tomoe KUDO*

キーワード：ハママシケ陣屋, 浜増毛運上屋, 秋田藩領増毛

1. はじめに

山形県庄内地方は、日本海に面する庄内平野を中心とした地域で、内陸の鶴岡市と海に近い酒田市が主要都市となっている。近世、鶴岡市を中心とする地域は、庄内藩として徳川家譜代大名の酒田氏が統治した。1859（安政6）年9月、幕府は庄内藩にハママシケのほかルルモツペ、テシホ及びテウレ（天売島）、ヤングシ（焼尻島）を、秋田藩にはマシケを領地として与え、その警備を命じた（石橋、1980：216）。庄内藩は現在の石狩市浜益区川下に警備のための陣屋を建設し、さらに領内から募集した農民を浜益平野の各地に移住させて農業開拓を進めた。1868（慶応4）年、戊辰戦争が起こると、陣屋は放棄され、藩士、農民は庄内に引揚げたが、現在も浜益区内には山形にゆかりのある住民が少なくない。

陣屋内の建物は1868（明治元）年に解体あるいは移築されたが、土塁などは破却を免れ、1988（昭和63）年に史跡「ハママシケ陣屋跡」に指定された。現在、浜益区では史跡ハママシケ陣屋の調査、保全活動を行う市民団体「陣屋研究会」が活動している。

石狩市浜益区が庄内藩領となっていた安政6年から慶応4年までの史料の多くは、鶴岡市立図書

館に収蔵されている。そのためこれまでも「陣屋研究会」などが鶴岡市立図書館で資料調査を行っている。

2022（令和4）年6月6日から10日までの期間、筆者が研究協力員として参加している基盤研究B「北海道・東北と樺太におけるアイヌ・和人間の北方交易圏の実態調査」（北海道教育大学札幌校百瀬響教授）の調査が山形県鶴岡市で実施され、鶴岡市立図書館では所蔵史料の調査を行った。その際、鶴岡市内の旧家から受領して日が浅く未登録の史料中に庄内藩ハママシケ陣屋が描かれたものがあるとご教示いただき、ご厚意により閲覧、撮影することができた。これが今回紹介する「庄内藩警備の蝦夷地海岸図」（請求番号：泉町三井家文書1367）である。本史料の内容についてはまだ検討中であり、今回はその概要を述べるにとどめるが、これまで知られている海岸図に比して書き込まれている内容が詳細で極めて史料価値の高いものであることは間違いない。

2. 絵図の概要

本図は、継紙に描かれた絵図で、墨一色で風景が描かれ、各図には標題が入っている。最も右側に描かれている図は「高嶋嶋離宮 弁天社」となっ

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

ており、現在の小樽市高島の弁天島であると考えられる。次の図は「御陣屋之図」で浜益のハママシケ陣屋が描かれている。「御陣屋之図」に続いて「濱増毛運上屋」「秋田領マシケ」「トマ、イ運上屋」で最も左側の図は「填信男運上屋」である。填信男運上屋の左端には「御領国〃末境エキコマナイ」と書き入れられている。エキコマナイはテシオ場所とソウヤ場所との国境である。

以下に図中の表題と書き込みを示す。3) 濱増毛運上屋と6) 填信男運上屋は横長になるため、分割して画像を掲載した。

- 1) 高嶋〃離宮 弁天社 (図1)
- 2) 御陣屋之図 (図2)
ヒサンベツ御陣屋ヨリ一里弱
- 3) 濱増毛運上屋 (図3)
濱増毛運上屋ヨリ十七丁半
- 4) 秋田領増毛 (図4～図8)
マシケ
御境
ル、モツヘ
留々門津邊運上屋
- 5) マ、イ運上屋 (図9～図11)
トママイ領フーレベツ^(注1)
秋田領リーシリ嶋周廻十八里
- 6) 填信男運上屋 (図12)
填信男領ワツカシヤクナイ番屋
(図13)^(注2)
填信男ヨリ十一里半
御領国〃末境エキコマナイ^(注3)

3 年代と作成者

本図の年代は「御陣屋の図」に描かれているのが安政7年に完成したハママシケ陣屋であり、描かれた時期は安政7年以降ということになる。絵図の中に荘内藩が領地としていた場所に対して「御領」とし、秋田藩領を「アキタ領」としていることから、描き手は荘内藩の関係者であること

が推定できる。

本図の大部分は荘内藩が安政6年から領地としたハママシケから秋田藩領のマシケを経てテシオまでの海岸部であるが、冒頭の高島だけは地理的に大きく離れている。安政6年に荘内藩は幕府からハママシケからテシオまでを領地として与えられたことは既に述べたが、この時に歌棄(うたすつ・現寿都町)付近から厚田(現石狩市厚田区)までの警備も命じられている。本図のなかに小樽高島の絵があるのはこのことと関連があるのかもしれない。あるいは警備範囲となっていた歌棄から厚田までの区間の海岸線が描かれていたのかもしれない。

絵図はかなり上手な描き手によるものとみられ、内容も建物などがかなり詳細に描き込まれている。ただ、山の輪郭が二重に描かれている部分(3)ハママシケ運上屋の黄金山の部分)があり、正本ではなく控えに近い模写ではないだろうか。なお、アイヌ語地名の解釈については、「山田秀三, 1984. 北海道の地名. 北海道新聞社」を参考にした。

謝辞: 本資料の紹介にあたっては、資料の閲覧複写及び公開をご快諾くださった鶴岡市立図書館及び担当者の今野章氏に感謝申し上げます。

引用文献

(注1) トママイ領フーレベツ 初山別村風連別川.
フーレ・ペツ (hure-pet 赤い・川)

(注2) ワツカシャクナイ 豊富町若咲内. ワッカ・
サク・ナイ (wakka-sak-nai 飲み水が・ない・川)

(注3) エキコマナイ 「イキコマナイ」, 「ユキコマナ
イ」「エキコマナイ」などの表記がある. 稚内市抜海付
近の川と考えられる. テシオ場所とソウヤ場所の境界
になっていた.

石橋源編著, 1980. 浜益村史. 浜益村.



図1. 高嶋//離宮 弁天社



図2. 御陣屋之図



図3. 濱増毛運上屋



図4. 秋田領増毛①

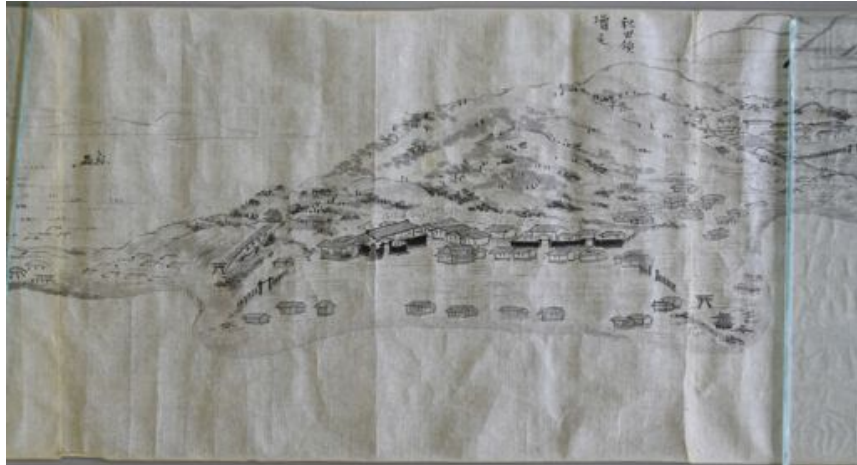


図5. 秋田領増毛②

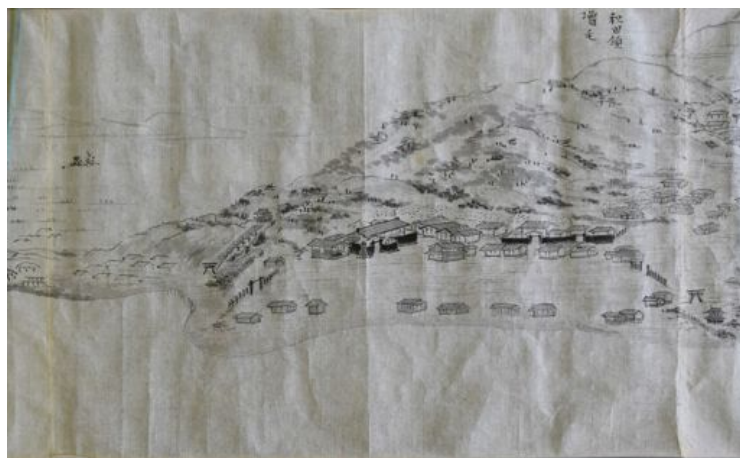


図6. 秋田領増毛③

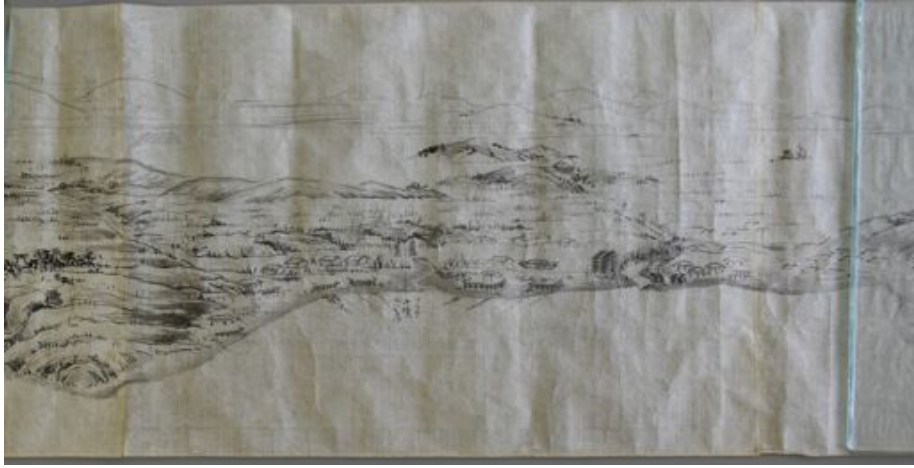


図7. 秋田領増毛④

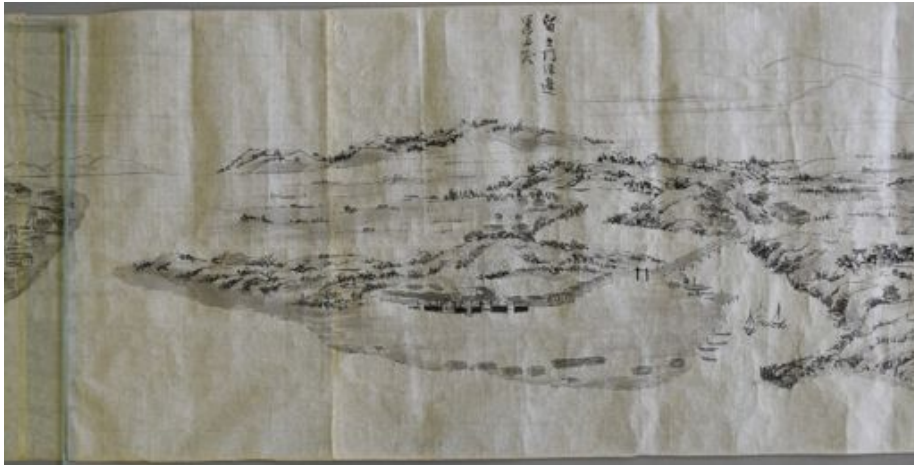


図8. 秋田領マシケ⑤・留々門津邊運上屋

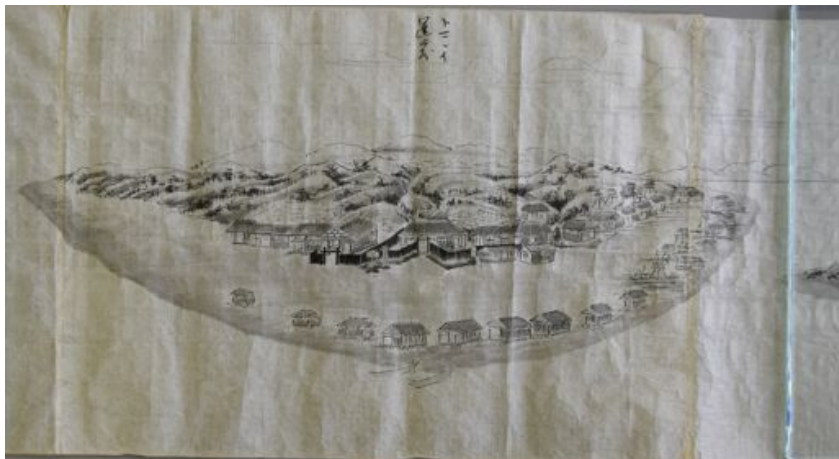


図9. トマ、イ運上屋



図 10. トマ、イ領フーレベツ①

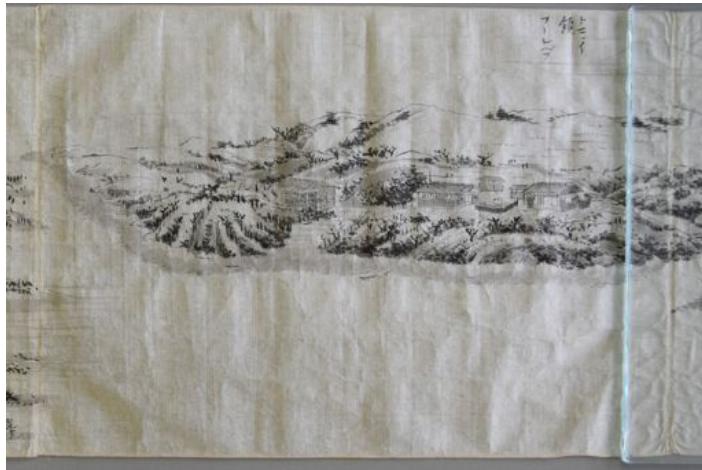


図 11. トマ、イ領フーレベツ②

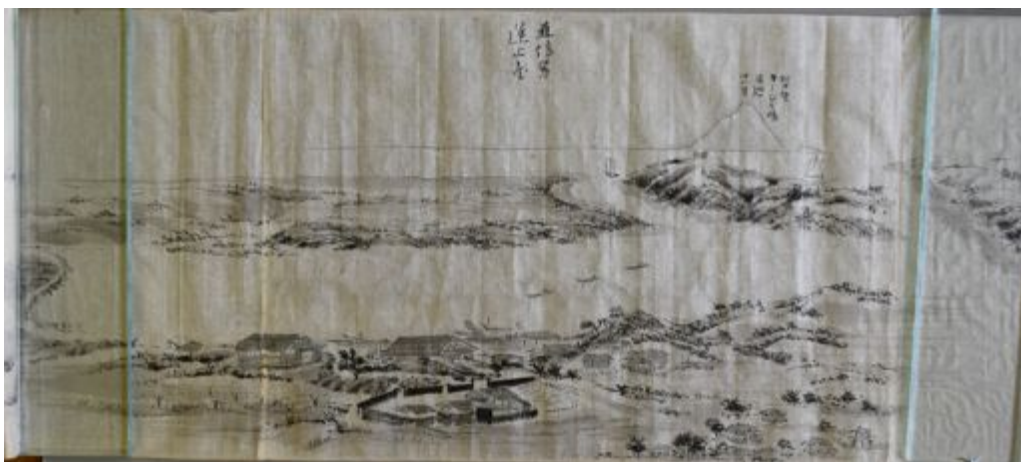


図 12. 填信男運上屋



図13. 塙信男領ワツカシヤクナイ番屋